

NMT 国臨協関信

●事務局／〒162-8655東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院
中央検査部門内

●発行者／吉田茂久
●編集委員／中村良幸 齋藤ひとみ 渡辺順也 荒木涼 竹内智也
●印刷所／一喜堂印刷株式会社 ☎0268-35-2624

関信支部ニュース 学会特別号



支部HPアドレス
<https://www.kanshinshibu.org/index.html>



支部NEWSアドレス
<https://www.kanshinshibu.org/member/news.html>

第52回国臨協関信支部学会報告

国臨協関信支部事務局長 白井 洋平

令和6年9月7日（土）に国立がん研究センター中央病院を会場として、第52回国臨協関信支部学会を開催いたしました。今年度は5年ぶりとなる集合型での開催となりましたが、一般演題発表31演題、学会企画として有志による分科会、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社から講師をお招きしての特別講演を関信支部会員273名（会員以外を含む参加人数275名）の参加の下、無事開催し終了することができました。学会の参加、開催に際しましてご支援ご協力を賜りました会員の皆様方には感謝申し上げます。

本学会のテーマは『PRIDE ～必要とされる検査技師へ～』としました。我々臨床検査技師を取り巻く医療環境は日々刻々と変化しており、政府主導で推進されている情報技術（IT）、人工知能（AI）を含む医療DX（Digital Transformation）、医師の働き方改革に伴うタスク・シフト／シェア、ポストコロナへの対応などが求められています。これらの課題に対して我々は何をすればいいのか、どのように対応すべきか、臨床検査技師の価値や真価を確認すると共に、今後の臨床検査技師の在り方を考える機会になる学会を目指しました。

一般演題は31演題（内：新人20演題）の応募をいただき、日頃の研究成果の発表が行われ、対面式ならではの質疑応答のやり取りも見ることが出来ました。またセッション毎に座長よりベスト口演賞が選出され7名の演者の方が受賞されました。

有志による分科会は「新入職者から若手を対象に検体検査業務に役立つ基礎知識」として、血算の実践的な見方・考え方を国立がん研究センター中央病院の有賀祐先生、精度保証・精度管理の考え方を同病院の松林秀弥先生にご講演いただきました。どちらも検体検査の基本ですが重要な分野であり、若手技師以外にとっても日々の業務に活かせる講演でありました。

特別講演は「ウイルス性肝炎診療の振り返りと課題を再考する」をテーマにロシュ・ダイアグノスティックス株式会社マーケティング本部の近藤雅紀先生にご講演いただきました。ウイルス性肝炎の主であるB型（HBV）、C型肝炎ウイルス（HCV）の予防と治療の変遷から現在も残されている課題、これからの肝炎医療について幅広い知見を得られる講演でありました。

閉会式において国臨協関信支部表彰が発表され、高崎総合医療センター 臨床検査技師長 瀬下明子氏、埼玉病院 臨床検査技師長 蓮尾茂幸氏、千葉医療センター 臨床検査技師長 山崎正明氏の3名を表彰させていただきました。

学会賞も当日発表され、学会賞選考委員による厳正な審査の結果、新人賞は「当院における67S語表の単音節別正答率の検討」栃木医療センター 李恩恵氏、学会特別賞は「輸血検査における寒冷凝集素の影響が疑われた場合の検査フロー作成」渋川医療センター 黒木美弥氏、学術奨励賞は「GMP3原則に基づいた輸血細胞療法室の品質管理構築を目指して」国立成育医療研究センター 竹内優希氏が受賞されました。

地区会コーナーでは今年も各地区会より素晴らしいポスターを作成していただきましたが、最優秀賞は群馬地区会、優秀賞は新潟地区会および栃木地区会が受賞となりました。また、今年から新設された、全会員による投票で選出されるベストポスター賞は群馬地区会が受賞となり、最優秀賞と併せてダブル受賞となりました。

各賞を受賞された皆様に心よりお祝い申し上げます。

5年ぶりの集合型開催ということで、集合型開催の経験が無い役員が多数の中、準備・運営も手探りで行うこととなりましたが、大きなトラブルもなく成功裏に終了することが出来、安堵しております。Web開催では見ることの出来なかった、参加いただいた会員の方々の情報交換や親睦を深める姿を会場で拝見し、集合型のメリットを再確認することが出来ました。コロナ禍前の一般演題数や参加人数には届きませんでしたが、今回の反省点を踏まえて、来年はより一層参加しやすい学会を目指して関信支部役員一同、活動に取り組んで参ります。

最後になりますが学会へご参加いただきました会員の皆様、会場をお貸し頂いた国立がん研究センター中央病院の皆様、開催に際してご協力を賜りました会員・実務員各位、準備・運営に携わっていただきました学術委員会部門員、OB会の方々など本学会に関わっていただきました皆様方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



第52回国臨協関信支部学会「学会賞」選考委員会報告

国臨協関信支部学術委員会副委員長国立成育医療研究センター 池上 陽太

国臨協関信支部表彰規程に基づき「第52回国臨協関信支部学会」の学術奨励賞、学会特別賞ならびに新人賞の選考を致しましたのでご報告させていただきます。

各賞の選考基準として学術奨励賞は学術的に特に優秀と認めたもの、学会特別賞は施設又は地区会の取り組み等で特に優秀と認めたもの、新人賞は新人枠の中から優れた演題を選考致します。

1次選考は登録演題31題を部門別に学術委員全員で査読し各項目5段階で採点を行い、2次選考として9月7日学会当日に発表を聴講し、齋藤副支部長（NHO 久里浜医療センター）白倉委員長（NHO 霞ヶ浦医療センター）小林微生物部門長（NHO 東京医療センター）が第1会場、私と石川検体検査部門長（NHO 東京医療センター）が第2会場を担当し、発表態度・内容を中心に審査・採点を各項目10段階で行いました。最終審査は学会当日の学会賞選考委員会による協議にて各賞を最終決定致しました。

新人賞は「当院における67S語表の単音節別正答率の検討」を発表されたNHO 栃木医療センター李恩恵技師を選出致しました。本研究は語音弁別検査において、単音節の正答率に差があるのかを検討されていました。異聴傾向と明瞭度を調査する事でより良い補聴器のフィッティングが目指せる研究であり、患者への貢献度が高く更なる検討を期待します。また発表態度やスライド構成も良く高評価でした。

学会特別賞は「輸血検査における寒冷凝集素の影響が疑われた場合の検査フロー作成」を発表されたNHO 渋川医療センター黒木美弥技師を選出致しました。本研究は寒冷凝集素の影響が疑われる症例においての検査フローチャートを作成する事で、当直技師の不安解消と迅速な輸血の実施に対応できるシステム構築が期待できる内容でした。更なるブラッシュアップと実用化を目指して頂きたいと思います。またスライド内容・構成も高評価でした。学術奨励賞は「GMP3原則に基づいた輸血細胞療法室の品質管理構築を目指して」を発表されたNC 成育医療研究センター竹内優希技師を選出致しました。本研究は細胞調製業務への参画、治療用細胞の品質管理について臨床検査技師の評価を高める優れた取り組みです。学会テーマでもある必要とされる検査技師を目指してさらなる挑戦を期待します。また原稿に頼らず自身の言葉で伝える発表態度が素晴らしく、スライド内容も良く審査員全員一致でこの賞を決定致しました。

受賞されました方々ならびにご施設の皆さま、おめでとうございます。

第52回国臨協関信支部学会

学術奨励賞を受賞して

国立成育医療研究センター
竹内 優希



令和6年9月7日に開催された第52回国臨協関信支部学会におきまして、学術奨励賞をいただき大変光栄に思います。

本学会では、「GMP3原則に基づいた輸血細胞療法室の品質管理構築を目指して」という演題を発表させていただきました。細胞調製業務を医師から臨床検査技師へ移行するにあたり、より良い運用を目指したことがきっかけでした。細胞治療で重要なことは、治療用細胞の品質を保ち、汚染させないことです。そこでGMP3原則を基盤に細胞調製室の品質管理に取り組みました。このことで、治療用細胞の品質を担保し、安全で適切な免疫細胞治療を行えるようになったと同時に、細胞治療において品質管理をすることは臨床検査技師の重要な責務であると再認識することができました。今後は、この経験を活かし、他の細胞調製業務へつなげていきたいと思っています。



今回の発表は、自分にとっては初めての経験ばかりで、抄録やスライド作成で悩むことが多くありました。不安でいっぱい私のために、予演会を何度も実施していただき、根気強くご教示いただいたため、当日は自信をもって臨むことができました。

この度、学術奨励賞を受賞できましたのも、臨床検査部長、技師長をはじめとする臨床検査部の先輩方や血液腫瘍科の先生方のご指導・ご協力いただいた結果であり、心より感謝申し上げます。必要とされる臨床検査技師へと成長していけるよう、向上心をもって日々の業務や自己変革に努めていきたいと思っています。

最後になりましたが、本学会を開催するにあたりご尽力いただきました国臨協関信支部役員の皆様、学会運営関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

第52回国臨協関信支部学会

学会特別賞を受賞して

NHO 渋川医療センター
黒木 美弥



この度は、第52回国臨協関信支部学会におきまして、学会特別賞を頂き大変光栄に思っております。

今回、「輸血検査における寒冷凝集素の影響が疑われた場合の検査フロー作成」について発表させていただく契機となったのは、ルーチン時の血液型検査を実施している際に、温生食による洗浄や、試薬・検体の予備加温を実施しても判定ができない程の重症寒冷凝集素病症例を経験したことでした。

寒冷凝集素は日常検査においても散見されますが、日当直帯で遭遇することは比較的稀であり、たとえ軽症であったとしても輸血検査の経験が浅い技師にとっては対応に戸惑い、難渋することが想定されました。そこで、定義に対する理解を深めたうえで、安心して検査に臨めるような体制を構築することを目的に、検査手順や対処方法を明確にした検査フローの作成に至りました。今回の取り組みが学会特別賞といった形で評価されたことは、今後の業務においても大変励みになります。

この度の受賞は、ご指導いただいた検査科スタッフのお陰であり、改めて心より感謝申し上げます。また、渋川医療センターは、本学会においてこれまで3年連続で賞を受賞しており、先輩方が築きあげたレガシーを、4年連続の受賞といった形で繋ぐことができ、少しホッとしております。

私たち臨床検査技師は、病態解析や理解に基づいたうえで適切に対応し、正確な検査結果を迅速に提供することが求められています。今後も臨床への貢献ができるよう日々の業務や自己研鑽に一層励みたいと思います。

末筆ながら、本学会開催に当たりご尽力頂きました国臨協関信支部役員の皆様をはじめ、関係者の方々に深く御礼申し上げます。

第52回国臨協関信支部学会

新人賞を受賞して

NHO 栃木医療センター
李 恩恵



令和6年9月7日に開催された第52回国臨協関信支部学会におきまして、新人賞をいただき大変光栄に思っております。今回私は「当院における67S語表の単音節別正答率の検討」という演題で発表させて頂きました。

当院では、耳鼻科と連携して聴力検査を行っており、聴力閾値を調べる標準純音聴力検査をはじめ、補聴器の装用効果を調べる補聴器適合検査に至るまで、幅広く実施しています。補聴器を検討する前の語音弁別検査では、患者に無意味な20個の単音節を聞かせ、どのくらい正答できるかを確認します。検査を行っていく中で「聞き間違い方にはパターンがあるのではないか」と疑問に思い、今回の演題に至りました。検討した結果、正答率に差があることや、聞き間違い方にはいくつかのパターンがあることが明らかになりました。普段からルーチンを流れ作業のように行うのではなく、些細なことにも疑問を持ち、調べながら検査をする事の大切さを改めて実感しました。また、発表準備の為多くの文献を読む中で、検査の歴史やその応用、結果の解釈に至るまで様々なことを学ぶことが出来、大変充実した時間となりました。

抄録からスライド作製、発表に至るまで「どうすれば分かりやすく伝えられるのか」と、試行錯誤の連続でした。今回このような賞を受賞出来たのも、ご指導くださった宮澤技師長はじめ検査科の皆様のおかげです。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

最後になりましたが、学会を開催するにあたりご尽力いただきました国臨協関信支部役員の皆様、及び関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

第52回国臨協関信支部学会

地区会コーナー最優秀賞を受賞して

NHO 沼田病院
椎名 将昭



この度、第52回国臨協関信支部学会地区会コーナーにて最優秀賞、ベストポスター賞をいただき大変光栄に感じております。また、当地区会に投票いただきました地区会代表の審査員の方々、会員の皆様方に改めてお礼申し上げます。今年度の支部学会は5年ぶりの集合型開催となり、久しぶりに会場内でポスターが展示されることで、各地区会ともに気合が入っていたかと思えます。その中でダブル受賞は群馬地区会の総合力を皆様にお見せできたものと自負しております。

今年度のテーマは『PRIDE ～わが地区会が誇るオンリーワン～』で、各地区会の誇れる「モノ」の紹介がお題となりました。二年連続受賞のかかった最優秀賞のプレッシャーを感じつつ、当地区会も地区会理事を中心に各施設で調査隊を結成し、現地調査にあたりました。観光地あり、温泉あり、美術館あり、個人的な趣味あり……etc、各施設の特徴が表れていたと思います。また、ポスター全体をすごろくにしたことで皆様にも分かりやすく楽しめていただけたのではないのでしょうか。見ていただいた会員の皆様の心にぐぐつときていただいたのなら私たちの作戦通りです（笑）。



新型コロナウイルス感染症も徐々に落ち着いてきて、以前のようにとまではいきませんが、地区会活動も再開されております。今回の支部学会も集合型で開催され、改めて人と接する喜びを感じることができました。ポスターを眺め、いろいろと会話を膨らませている会員の姿を拝見し、今後の地区会活動も会員同士の会話が增え、活動もさらに活発になることを切に願っております。

最後になりますが、学会開催にご尽力いただきました関信支部役員をはじめ、ご協力いただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

第52回国臨協関信支部学会 学会賞受賞者

令和6年9月7日

該当賞	演題番号	演題名	発表者	発表者施設
学術奨励賞	23	GMP 3原則に基づいた輸血細胞療法室の品質管理構築を目指して	竹内 優希	国立成育医療研究センター
学会特別賞	22	輸血検査における寒冷凝集素の影響が疑われた場合の検査フロー作成	黒木 美弥	国立病院機構 渋川医療センター
新人賞	9	当院における67S語表の単音節別正答率の検討	李 恩恵	国立病院機構 枋木医療センター
ベストロ演賞 ※各セクション 1演題ずつ、 一般演題座長に より選出	5	クロモアガーカンジダプラス培地から検出された <i>Candida auris</i> 様コロニー鑑別方法の検討	齋藤ひとみ	国立病院機構 霞ヶ浦医療センター
	6	完全房室ブロックに伴い Torsade de Pointes が誘発された後天性QT延長症候群の一例	水永ちひろ	国立病院機構 相模原病院
	14	運動負荷心電図検査における患者の転倒・転落防止を目的とした生理検査室の取り組み	三橋 啓太	国立国際医療研究センター 病院
	17	タスク・シフト/シェアに係る救急外来での静脈路確保の取り組み	渡辺 順也	国立国際医療研究センター 病院
	19	当院における報告書確認対策チーム活動について	中山 諒太	国立国際医療研究センター 病院
	22	輸血検査における寒冷凝集素の影響が疑われた場合の検査フロー作成	黒木 美弥	国立病院機構 渋川医療センター
	27	急性虫垂炎を契機に診断された急性白血病の一例	植松さくら	国立病院機構 東京医療センター

第52回国臨協関信支部学会 地区会コーナー投票結果

該当賞	最優秀賞	優秀賞	ベストポスター賞
地区会名	群馬地区会	新潟地区会、枋木地区会	群馬地区会

写真大募集

関信支部ニュース236号(新年号)の表紙写真を会員の皆様から募集いたします。採用された方には粗品を進呈いたしますので奮ってご応募ください。

宛 先：霞ヶ浦医療センター 齋藤ひとみ
Email : saito.hitomi.ft@mail.hosp.go.jp

締切は
11月29日
(金)まで!